

編輯室より

○五月號を鐵道特輯號とする爲めに編輯室は非常に多忙を極めました、特に鐵道協會に對する特輯號は出席會員の爲め最も便利有益なる内容を以つて満された。實に從來にない試みである。

○我々は唯々前進するのみです。

○理想的な工事畫報にする爲めの熱意から種々な注意を寄せられる事を編輯者は大に歓迎しますが、各記者は其意味に於て常に最大の努力を拂つて居ります。

○鐵道號の影響で六月號も發送が少し遅れる事を讀者に御詫びします。

○鐵道省建設局工事課編纂の「建設工事現場業紙」の發賣に就て尙ほ問合せがありますが、近頃神田區鍋町のシビル社から發賣してをりますから同社へ紹介して下さい。

五月雜誌記事

- 朝鮮土木建築協會々報 衛生と土木(志賀潔)カールットに依る岩石の切崩(片原榮次郎)
- 電氣之友 諾威水電事業概観(土井眞三次)
- 名古屋工業會々報 歐米に於ける陸軍建造物其他視察報告(原田廣)
- 工政 工政會十週年記念祝賀會及び第五回全國工業家大會記事
- 工學 發電水力の現況(菊池英彦)路面輾壓機に就て(篠瀬玉造)
- 建築世界 本邦建築材に就て(小山一郎)建築契約(楠富士太郎)
- 港灣 京濱運河開鑿問題
- 建築畫報 東京博覽會(滿壽志)理解ある施主と工事の失敗(藏田周忠)
- 東洋建築材料商報 軽いコンクリート(玉堂)
- 工學研究 鐵筋コンクリート工事の失敗實例、アスファルト舗道の設計と築造

第五回保線講話會記録

鐵道省工務局發行

内容は流水利用の排雪に就て(菊池怨)。泥炭地に於ける軌道の保守に就て(野邊地慶太郎)。軌條毀損種別解説(鈴木益廣)。枕木に就て(數賀山學)。工務局長挨拶(加賀山學)。枕木更換作業討議。軌條更換作業討議。

以上は昭和二年七月鐵道省にて開催した保線講話

會にて各自の擔当事項に關する研究を發表したもので討議事項も参考に良いものである。

紐育高速鐵道設計基本示方書 一册

東京市電氣局の高速鐵道調査課長たる安倍邦衛氏の盡力により、ニューヨーク市高速鐵道局の示方書を復刻したものを、今回邦譯したものである。ニューヨーク市の高速地下鐵道は規模廣汎なる事世界一で、工事施行上にも地下、高架、水底其他有ゆる經驗をまとめたもので、其示方書は最も權威あるものと稱せられるものである。菊判53頁定價70錢東京橋工業雜誌社發行。

鐵筋混凝土の手引 一册

日本ポルトランドセメント同業會編

土木建築に關するコンクリート工事施工の理論を常識的に記述したもので、最近の良參考書である、英國建築技師協會員アルバート、レーキマン氏の著書により編纂したと稱せられる、菊判105頁定價送料とも金34錢の普及版である。(振替にて申込あれば諸報社にて取次ぎます)。

土木建築 工事畫報 第四卷 第六號 定價七十錢(稅二錢)
毎月一回一日發行 一ケ年十二冊發行
購 讀 料 壹 部 七 十 錢 稅 二 錢 參 月 貳 圓 稅 共 六 月 四 圓 同 一 年 八 圓 同 (外國ハ一部稅共七十八錢)
注 文 注文は總て前金、送金は必ず振替貯金にて振替東京七〇貳六五番宛拂込の事、但し六ヶ月以上の申込は御希望により集金郵便による但集金拂込料とも御負擔の事
昭和三年五月廿六日印刷納本 昭和三年六月一日發行 編輯兼 岡 崎 保 吉 發行人 東京府北豐島郡西巢鴨町池袋九七三 印刷人 鷺 見 知 枝 麿 東京市京橋區木挽町一ノ四 印刷所 鷺 見 文 友 堂 東京市京橋區木挽町一ノ四 發行所 工 事 畫 報 社 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 (丸ノ内仲通り四號館七號) 電話丸ノ内二六三三番 振替東京七〇貳六五番
大賣捌所 東京堂・東海堂・大東館・北陸館



(4) 横利根開門

利根川治水工事中最も著名なる開門にして利根川より霞ヶ浦北浦及び新利根川等の沿岸

(4) The Yoko-Tone rockgate.

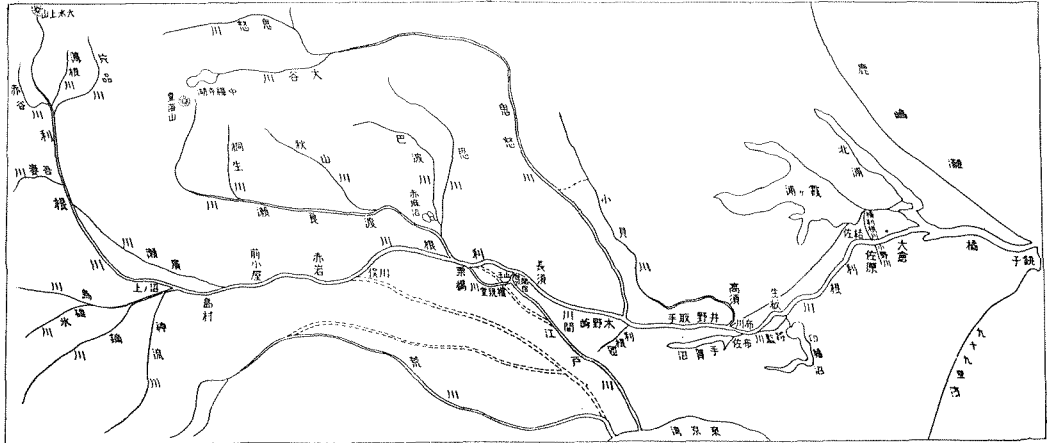
約2萬町歩に及ぼす水害を絶ち且つ舟運に便するため築造したるもの。

築堤二十五萬間、土量一千百三十萬坪、所掘鑿土量二千十萬坪、護岸七萬五千間、開門二箇、樋管水門百個、全工費實算六千三百四十萬圓之矣、願自以下三十二年一起第一期之工以來、二十七星霜、其工期併用人力以器械、銳意捷進工程、用機關車、掘鑿機、浚渫船、曳船、軌條、運土車、運土船等、無機而不爲用、今也此萬古不拔之鉅業、將竣其功、規模既宏大、施工亦堅牢、生民賴以長免積年之困厄、各安業殖產、子孫亦享其慶、邇于明治八年始施行利根川改修工事之時、爾來五十二年、雖時運有消長、河政有得失、水患又荐臻、而沿川鄉邑以協力至殷、遂見此偉工之大成、是固非尋常人力之所能、寔可謂聖代之惠澤矣、於是乎、世無復有治水之難者也、頃者佐原町有志胥謀、就利根河畔小野川口之地、設紀念公園、北望水雲搖曳之外、可以遙拜鹿嶋神宮、南顧古翠蔚蒼之邊、可以近禮香取神宮、左瞻右仰使、人想此偉工、眞所負于神祐之至大矣、今乃將建碑紀功傳諸于不朽、介僚內務技師阿部清紀君、屬文于予、予親董利根川改修之工多年、以故喜鈇梗概、以應其需云爾、

大正十五年五月

內務省東京土木出張所長

正四位勳三等 工學博士 中川吉造 撰



(3) 利根川水系圖(點線は往古の流路を示す)

(3) The Tone River and its branches. The Tone is the largest river in Kwansai district.

之海、勢横溢、更合荒川之漲水、走衝輦轂之下、淹流瀾旬、浸二十四萬町步、損耗算二千六百餘萬圓、稱未曾有矣、政府乃更大改修之規、測定上利根之流量、爲二十萬立方尺、就渡長瀬川、設一大游水地、調節漲水、以使無所流溢於幹川、分流量八萬立方尺於江戶川、受三萬五千立方尺于鬼怒川、定合流地點以下之流量、爲十五萬五千立方尺、以四十四年度、開工、並着手第一期追加工事、一舉至速成全川之工、改修之功竣、河狀之變易殊著、全新其面目矣、在上游、則整島村、前小屋一帶流狀之錯綜、就赤岩上游無堤之地、築隄、水缸爲熄、在中游、則閉權現堂川、開新川於五霞村山王、設水門八箇、各幅二十五尺、江戶川所納之流量、由以得調節、造水門、幅三十尺以資于船舶之通航、幕府素創始制水工於此、關宿棒出之名夙高、今代以水門、水閘、更開鑿放水路於行徳、在幹川、則就長須川間一帶之野地、築隄、就木野崎、鬼怒川口、井野三地之河水迂回處、各開直路、就小貝川穿新川於高須、在二下流、則就布佐布川間之狹窄處、加鑿弘之、塞將監川於燕口、就印旛沼口、設逆水門二聯、各幅三十尺、湖岸免浸患者、二千町步、就生板、結佐間之紆曲處、各鑿直路、在利根川口、則設水門、幅三十六尺、長三百尺、具複扉、以便于航通、沿湖絕水患者八千町步、得沃田一千五百町步、在佐原小野川口、則設逆水門、幅二十尺、門則架以撥橋、蓋爲本邦之初設、由以加天津之殷昌矣、在大倉、橋間、則開鑿新川四里、以疏通河水、別就舊北濬、加改修之工、霞浦、北浦一帶之水位爲低下焉、通算全川河道之地六千六百町步



(2) 記功碑除幕式當日、中川博士祝辭朗讀
(2) Dr. Nakawga is reading his congratulatory at the unveiling ceremony.

流路一千百二十里、航路亦算二百二十里、其所灌溉、實及于十二萬町步、以分流江戶川、水路通于帝都、地味之饒與舟楫之便相待、發暢產業、進展文化、有至大者、然漲歿之所及、却互于十四萬町步、餘水汎濫、往往浸帝都、是以利根之治水、古來視以為至難之業、待鉅大之工亦實久矣、往昔斯水也、經川俣、南流併荒川、合入間川、注江戶灣、渡其瀨川流在其東、亦注于此、栗橋之東、更有水一水、納沼澤瀦水、合毛野川、常陸川是也、東流注香取流海、遂入外洋、是為舊時之水經、

然德川氏之開府於江戶也、首起治水之工、分荒川、合渡其瀨川、利根河身、為幾經變遷、至承應三年、導利根之水、通于常陸川、遂成今日之河系矣、川之東遷以降、流下土砂、滯積於流海之地、田野為之大開、然中利根川以下、復不絕連歲暴漲之患、後致以寬保、天明、弘化、湧患大臻、禍互于全川、幕府憂之、頻加修治、以至嘉永、安政、內外事滋、復不遑顧于此、土砂愈堆、水路大亂、至再呈改修以前之河狀矣、明治維新之後、政府深致思于此、以明治八年、開改修之程、以二十年、加工于全川、然以當時所主在低水、治水之制亦弛、河狀益放矣、故一遭驟霖、則橫流四浸、水殃漸甚、遂致以二十九年及三十一年、湧患大到、政府乃立改修之計、將以備于大漲之水、新鑿河道、整河積、築堤塘、設游水地、以防慘禍、為主、並進加水利之便、規畫成、乃經帝國議會之協贊、使沼之上以下沿川五十一里直隸于內務省、以三十三年度起工於佐原以下、其他亦遞次起工、尋佐原以下功竣、然四十三年八月、重遭大漲、奔流滔滔、襄陵決堤、萬頃之沃野、一望化成濁水、